

国展工芸

への誘い

⑧

塩釉繩文象嵌皿

島岡達三



炎の動き 絶妙な景色

東京の組紐師の家に生まれ、栃木県益子を拠点とした島岡達三（1919～2007）は、1996年に繩目の文様に白土を施す「繩文象嵌」の技法で重要無形文化財保持者に認定された。本作品は繩文象嵌の技法に、師である濱田庄司から学んだ塩釉を合わせて焼成した。島岡は焼成時の炎の動きによって塩釉の溶け具合に変化が生まれることを利用し、大皿に絶妙な景色を生むことに成功した。

（益子陶芸美術館・松崎裕子）

「90回記念国展工芸沖縄展—黎明から現代 匠の系譜」は10月2日まで。月曜休館。県立博物館・美術館美術館企画展示室。入場料は一般1200円、小中高500円。未就学児無料。

島岡達三「塩釉繩文象嵌皿」